



本からたくさんのお話を学び感じてほしい—— 白鷹中学校図書館でボランティアによる本の整備が行われました

1月23日、白鷹町地域学校協働本部事業の取り組みの一環で、ボランティアによる白鷹中学校図書館の本の整備が行われました。

この取り組みは平成21年度から始まり、ボランティアで学習支援や部活動支援、図書館支援など子どもたちの成長をサポートする活動として、地域の皆さんに携わっていただいているものです。参加者の中には山形市在住の方もいます。この日は、本のカバー作成など白鷹中学校の図書館にある本の整備を行っていただきました。ボランティアに参加した方は「今の子どもたちにも、一冊の本から世界が広がる楽しさを知ってほしい」と話し、子どもたちの成長を願いながら作業に取りかかっていました。



白鷹中学校図書館に集まっていたボランティアの皆さん



長年の功績をたたえて—— 田中良平さんが令和元年度秋の黄綬褒章を受章

田中良平さん（畔藤）が、農業の精励者として、令和元年秋の黄綬褒章を受章されました。これを祝して2月19日、パレス松風において、受章記念祝賀会（紺野伊久雄実行委員長）が開催されました。

田中さんは昭和31年に就農し、野菜の施設栽培をいち早く取り入れられ、野菜専業農家として安定した農業経営と周年農業を確立、生産組織のリーダーとしても活躍し、後進の育成にも尽力されてきました。平成16年からは、「有限会社どりいむ農園」の初代代表取締役として直売所の運営に携わり、地域農業の振興と町の活性化に貢献されました。



謝辞を述べる田中良平さん



災害復旧費の重要性に着目したことが高く評価されました 蚕桑小学校4年生の青木七海さんが国土交通省事務次官賞を受賞

3月5日、「土砂災害防止に関する絵画・作文」で優秀賞（国土交通省事務次官賞）を受賞した蚕桑小学校4年生の青木七海さんに賞状が授与されました。

青木さんは、県庁見学のときに「県民が収めている税金の使い道で、災害復旧費に充てられているお金が少ない」という疑問を持ち、平成25、26年に発生した豪雨災害を当時の状況を知る方々から聞き取り調査を行ったそうです。災害復旧には莫大なお金がかかること、その費用は県民が納める税金によって成り立っていることを学んだ青木さんは、税金と災害復旧費の重要性を作文のなかで主張しました。そのことが高く評価されこの度の受賞となりました。



表彰状を手にする青木七海さん



白鷹の冬ならではのおもてなしとイベントを楽しむ 第2回 しらたか雪紅（あか）り

2月1日、昨年に引き続き2回目の開催となったしらたか雪紅（あか）りが町内12カ所を会場に開催され、しらたかの冬を楽しもうと、町内外より延べ約1500人もの方々が訪れました。

今年は、記録的な暖冬に見舞われ、雪がないというアクシデントがありました。しかし、それぞれの会場で、「訪れてくれた人に喜んでもらいたい」と竹らんとたんや絵とうろう、イルミネーションなど、工夫をこらした紅（あか）りが数多く灯されました。

また、来場者を笑顔にしたのが、なんとといっても各会場のおもてなし。甘酒やコーンスープ、淹れたてコーヒー、豚汁、クラムチャウダーなどのふるまいが来場者をあたたため、商工会青年部が企画した「べにたかちゃんジャンケン大会」は、多くの子どもたちで賑わいました。

昨年よりも規模がパワーアップし、白鷹町の冬の風物詩ともなった、しらたか雪紅（あか）り。会場の紅（あか）りが冬の夜を優しく照らすなかで、多くの方々がご家族、ご友人とゆっくり団らんしながら、おもてなしとイベントを楽しみました。



1. ベにたかちゃんジャンケン大会に参加した子どもたち／2. 雪だるまとツーショット／3. スタンプラリーに親子で挑戦。景品のえんぴつ獲得までもう少し！／4. 荒砥新町の中央通りで行われた灯籠まつり。明かりがいっぱい／5. ふるまいで大行列となったあゆ茶屋でのあゆの塩焼き／6. 白鷹スキー場の雪だるま。ぽっやりした容姿がとても可愛いと好評でした。／7. 友人やご家族で冬の名物であるそばとかい餅を食べにのどか村を訪れた皆さん。話はずみ、とても賑やかな雰囲気でした／8. 賑わう夜の荒砥駅